



BOARD OF STUDIES
NEW SOUTH WALES

2001

**HIGHER SCHOOL CERTIFICATE
EXAMINATION**

Japanese Background Speakers

Transcript

(Section I Parts A and B)

Section I — Listening and Responding

Part A

Question 1

イ：この時間は、番組のリスナーの方に登場していただき、現代の日本の家族についてお話をうかがいたいと思います。まずは、東京にお住まいの、麻田さんです。麻田さんは奥様と二人で住んでいらして、共働きでいらっしやいます。麻田さん、よろしくお願ひします。えーっと、ご結婚されてからどのぐらいですか？

麻：今年の6月で2年になります。

イ：あ、そうですか。毎日いかがですか？お忙しいんじゃないでしょうか？

麻：ええ、二人ともいつも疲れてて、特に女房なんか、毎日カリカリしてて、結構ケンカになるんですよ。

イ：どんなことでケンカになるんですか？

麻：そうねえ、やっぱり家事の分担かな。僕は仕事でいつも夜遅く帰るので、平日はほとんど家事を手伝えないんだよね。でも、週末には、洗濯ものを干すのを手伝ったり、買い物に一緒に行ったりしてるけど、それが、女房には不満みたいなんだよね。

イ：つまり、奥さんはもっと家事に参加してほしいと思っていらっしやるんですね。

麻：うん、例えば、平日は僕のほうが遅く家を出るんだから、ゴミを出してくれとか、土日ぐらい風呂の掃除をしてくれとか言われるね。

イ：それでも麻田さんは奥さんが頼まれたことをなさらないんですか？

麻：あのね、そういう風におっしやいますけどね。僕は毎晩遅くまで働いていて今でさえ朝起きるのが大変なんです。それに、月曜から金曜まで働いて、くたくたなんだから、週末ぐらい休みたいじゃありませんか。第一、僕は結婚する前には家事なんてしたことがなかったから、うまくできないんだよ。

Question 1 (continued)

イ：結婚するまで何も家事をなさらなかったっておっしゃいましたが、どうされてたんですか？

麻：結婚前は親と一緒に住んでたから、母親が全部やってくれてたんだ。

イ：えっ、では、家のお手伝いとかもなさったことはないんですか？

麻：母親は専業主婦だからさ。うちでは父親が家に帰るとご飯の用意はできてるし、風呂もすぐ入れるようになってた。休みの日でも、灰皿一つ自分でとらないで、母親をよんで持って来させてたよ。父親が家事をするところなんて一度も見たことないね。

イ：それで、家事は奥さんが全部するのが当たり前だと思ってらっしゃったんですか。でも、奥さんもたまにはのんびりしたいと思っているんじゃないでしょうか？

麻：僕も妻が疲れているのはわかっていますよ。結婚当初の頃は家事に参加しようと思って手助けしたら、妻は僕のやり方が気に入らなくて、かえって喧嘩になったりしてね。それでだんだんやらなくなったんだ。

イ：あっ、じゃ、麻田さんがあまり家事をしないのは、奥さんのせいだっておっしゃるんですね。

麻：えっ、そういうわけじゃないですけどね。でも、同僚に比べれば僕なんてまだましな方ですよ。少しでもしてますから。

イ：なんだか結婚したがる女性が増えてきた理由がわかるような気がしますね。麻田さん、今日はどうもありがとうございました。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 1

先日実施した生徒へのアンケートの結果を報告します。まずストレスについては一位は成績・進路についてです。「いくら勉強しても不安だ」という回答が優秀な成績を納めている生徒からも多く見られました。

期待に応えなければというプレッシャーから自分が本当は何がしたいのか分からなくなり、目標を見失ったり、自信を喪失する生徒が見受けられます。周囲からの過剰な期待、自分への過度の期待からくるプレッシャーに対処しきれないために、自分の部屋にひきこもってしまったり、突然の暴力に発展する可能性のある例も二、三見受けられました。その例として、「親にも友だちにも自分の気持ちはわかってもらえない」とか、「とにかくムシャクシャする」という回答がありました。

それから、雑誌やテレビの影響で、高価な衣服やアクセサリーを購入するために、バイトに追われている生徒もいるようです。マスコミの作り出したイメージに振り回されている若者の姿が浮き彫りになっています。また、「たばこやドラッグはしたくないけど、仲間外れも嫌だ」という二つの感情の間で揺れている生徒がいるのも気にかかります。

もちろん、すべてが否定的な回答ばかりではありません。試験、試合などは「自分がどれだけ頑張れるか試すチャンスだ」と思う生徒はそれほどプレッシャーとは感じないと答えています。「ストレスのない社会はないから、将来のために学校でいろいろな経験をしたほうがいい」という意見もかなりあったことを付け加えておきます。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 2

大学入試をひかえた君たちに「プレッシャーの効用」といってもうなずく人は少ないでしょう。しかし、私の二十年のビジネス生活を振り返ると、プレッシャーこそが成功への近道であるといっても過言ではないと思います。

より高い目標があってこそ人間は努力するものです。今の自分に満足することなく、理想の自分を頭に描き、少しでもその理想に近づこうとする人だけが進歩します。みなさんも今よりもっといい点を取りたい、次の試合で絶対勝たなければ、というプレッシャーがあるから頑張れるわけですね。

また、みなさんの中には周囲からの期待をプレッシャーと感じている人もいるでしょうが、それはあなたがその期待に応えるだけの能力があるとみなされている証拠です。期待に押しつぶされず、挑戦していくことによって、人間として成長していくのです。それに、実社会に出れば、ストレスを避けるわけにはいきません。ですから、失敗が許される今こそ、プレッシャーを感じながらも、いろいろなことに挑戦し、そうしてプレッシャーを乗り越えることを学ぶことができるのです。

とはいえ、必ずしもプレッシャーがプラスに働くとは限りません。頑張らなくてはと思いつめ返って自信喪失に陥る人もいます。要はプレッシャーを成長へのエネルギー源に変えていくことが大切なのです。